

Mission impossible?

名古屋外国語大学
英語教育学科長
太田 光春 氏



教育随想

学校の使命は、生涯にわたり学習する基盤づくりである。言い換えれば、子供たちを自律した学習者にするのである。このことは学校教育法第三十条二項に明記されている。何故か。高校卒業後六十年を超える人生が待っているからである。変化の激しい社会の中で、子供たちは人生を遅く切り拓いていかなければならない。そのためには、学校で身に付けた知識・技能を自らアップデート、アップグレードしなければならぬ。さもないと、社会貢献したくても、人生を豊かにしたくても、できない可能性がある。

では、学校は何をすべきか。知識・技能を人のために使いたいという志をもった子供たちを育てることである。知識・技能は、自分の人生を豊かなものにするために必要だと認識できる子供たちを育てることである。学ぶことの意義を理解し、学ぶことに意欲をもった子供たちを育てることである。なぜなら、知識・技能は活用して初めて意味をもつものだからである。

次に、学習者としての自信を高める必要がある。学びの早い人、遅い人は確かにいるが、学べない人はいない。学び続けられなくても自分に必要な知識・技能を身に付けることができる。この事実を子供たちに確信させる必要がある。そのためには、評価が重要な役割を果たす。知識・技能は、量ではなく活用できるかどうかを評価する。思考力・判断力・表現力を評価する。妥当性のある評価、信頼性のある評価をする。評価が子供たちの学びに及ぼす影響を考える。他者との比較で子供たちを傷つけた一喜一憂させるのではなく、それぞれの以前の姿との比較で努力を認めたり促したりする。評価は、つまり、子供たちの成長や進歩の状況を適切に捉え、伝えるものでなければならぬ。学習評価の意義は、次の段階の学びへの手掛かりを与え、学習者としての自信と意欲を高めることにある。指導と評価を通して、学ぶことが好き、得意、と子供たちが思えなければ学校はその責任を果たしたことはない。

(おおた みつはる)



平成 30 年 11 月 1 日

11 月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

- 教育随想…………… 1
名古屋外国語大学
英語教育学科長
太田 光春 氏
- この人に聞く…………… 2
菓子工房 代表取締役
伊與田晃浩 氏
- 羅針盤…………… 2
音楽科指導員 手島 露子
- ふれあい…………… 3
南中学校 鈴木 智記
- 特集…………… 4
市民の交流を生み、文化を支える
～図書館交流プラザ「りぶら」
この 10 年の営み～
- お知らせ…………… 6
- フォト・ヒストリー…………… 8
校庭に風力発電機
(平成 5 年)
- この本を…………… 8



地元への思いを形に

菓子工房

代表取締役

伊與田晃浩 氏

商品のキャッチフレーズである『ありがとう。かりんとう。』には、伊與田氏の商売や地域に対する思いが詰まっている。

「売ってくれる人、買ってくれる人、応援してくれる人、全ての人に感謝する気持ちで商売しようという思いを込めています。」

伊與田氏は、かりんとうづくりを家業とする家に生まれた。当時はスナック菓子が主流で、和菓子の需要は減っていたため、エンジニアとして一般企業へ就職した。しかし、会社の一員として働くより、自分の力で家業を盛り立てたいとの思いが募り、二十九歳で店に入った。

「継ぐからには結果を出すと父と約束しました。でも、主要取引先が倒産

してしまいました。四年後には父が亡くなったことで品質が安定せず、売り上げも落ちました。そこで、前職の経験を生かして父の職人技を機械化できるようなりました。」

ところが、三十九歳のとき、新たな取引先までもが倒産した。

「よい商品をつくれるようになったのに、売ることができず焦りました。他社の下請けではなく、自社ブランドの商品をつくる重要性を感じました。」

そこで、岡崎の特徴を生かし、特産品である八丁味噌を使用したみそかりんとうをつくらうと決意しました。」

一念発起して製造に着手したものの、最初は全然売れなかった。しかし、岡崎を代表する菓子をつくるという決意は揺るがなかった。

「みそかりんとうで勝負したいという思いで、日々工夫と改善を続けています。品質のよい菜種油を使用し、誰も食べやすい、うちでしかつくれない味を目指し、味付け、形、材料の配合、揚げ方を研究しました。また、地域の店に自ら売り込みにもいきました。おかげで少しずつ認知されるようになりました。」

平成二十年からは、店頭で「できたてかりんとう」の量り売りを始めた。「他では味わえない味」と、口コミで広がった。毎月新商品を開発するなど努力を重ね、今ではみそかりんとうが、市のイベントで配るお菓みに採用されるまでになった。

商売が軌道に乗るにしたがい、地域との関わりをいっそう大切にしようになった。

「自分の工場から製造の過程で毎日煙や匂いを出していても、地域の人を受け入れてくれていて、ことにとっても感謝しています。商売の究極は人の役に立つこと。お世話になっていく地域に少しでも貢献したいと思っています。」

伊與田氏は、地域の祭りの代表となつて盛り上げるなど、地域に積極的に貢献している。

「地域との結びつきで、岡崎の地場産業がもっと活性化していけばよいと思います。岡崎土産といえども、みそかりんとう。そう言ってもらえるような、地元の人が誇れるお菓子を、つくっていきたいです。」

自分の力を試したいという思いから始まった伊與田氏の挑戦は、岡崎の発展までも視野に入れてこれから続いていく。



氏名 いよだ あきひろ
生年月日 昭和四十二年十月四日
住所 岡崎市能見通



魂を震わす力

音楽科指導員

手島 露子

「音楽には魂を震わす力がある。この思いは以前からずっと変わらな。指導員となった今、魂を震わす力は、子供だけでなく授業者である先生方と創り上げて生まれるものであると感じている。」

音楽科教育は、知覚と感受を両立させながら感動体験を共有し、豊かな情操を培うことが真髄である。そして表現の領域では、技能の習得や、曲想と音楽構造との関わりを理解するための教師の指導が鍵となる。

A 教諭は、四年生「ミソラドレ」五音の音階による「お囃子の旋律づくり」に取り組んだ。教室に入り、まず目に留まったのは、さまざまな音符の種類と、それぞれの音の長さの理解を促す掲示物である。子供が、イメージした旋律を自分の力で楽譜



おも 想いは伝わる

南中

鈴木 智記

A男は、帰りの会が終わると、真つ先に活動場所に向かう熱心な生徒だ。そんなA男が悩みを吐露したのは、昨年三月のキャプテン会でのことだった。キャプテン会では、誇れる部にしようと話し合っていた。

「部活動の開始時刻が守れない。めんども多し、挨拶の声も小さい。自分の想いが部員に伝わらない。」

私は、気さくなA男から思いもよらない深刻な言葉が発せられたことに驚いた。行き詰っている様子のA男に対し、

「みんなが同じ目標に向かうことが大事だね。副キャプテンや部員にもっと気持ちをぶつけて協力を呼びかけたらどうか。」

と声をかけた。A男は、他の部のキャ

プテンからもアドバイスをもらい、「仲間と一緒にやる方法」を考えていきたいと語った。

年度が替わり、私は体育主任になり、同時にA男の担任にもなった。自分の所属する部に誇りをもち、総合体育大会の開会式で胸を張って行進してほしいと願い、A男と話す機会を多くとった。体育主任として部の顧問にもA男が悩んでいることを伝え、支援をお願いした。

「先生。部でまず話し合いをしましょう。挨拶を当番制にして、全員が前で話したり、声を出したりできるようにしました。自分がやるという意識をもてるようにしました。」

「いいじゃないか。キャプテン会を意義あるものにしていくな。」

「はい。でも、本気で頑張ろうという子はまだ半分くらいです。」

私は、A男が部員の自覚を高めようと考えて動いていることを褒めた。そして、誇れる部にしようと思いをもち、行動することが、徐々に部員の心を動かすと助言した。

行進練習に熱が入ってきたある日、体育主任として行進練習を見守っていたとき、

「先生。一人骨折していて片手が振れませんが、全員で参加できますか。当日みんなで行進がしたいのです。」

とA男が想いを伝えてきた。私は、けがをしても同じ目標に向けて頑張っている部員と一緒に、全員で行進したいというA男の想いを大切にしたいと思った。

「できる。全員で頑張れ。当日はがんばりたいところで見ているぞ。」と伝えると、A男は「頑張ります。」と、笑顔で力強く答えた。

総合体育大会の開会式。先頭で入場するのは南中学校である。私はグラウンド正面に立ち、行進を見守った。A男が学校代表として旗を持ち、堂々と入場してくる。A男と同じ部の仲間が引き締まった表情で胸を張って行進している。堂々とした姿に胸が熱くなった。すべての部員を大切にするA男の想いが、部員の心に確かに伝わり、一体感ある部に成長したことを実感した。



に表せるようにと、段階的な指導が丁寧に行われていたことが分かる。

導入では、三名の子供が意図的に指名され、前時に試作した三音構成の旋律を発表した。ここでA教諭は旋律を比較させ「それぞれ何の音で終わっているかな」と発問した。聴き比べた子供たちは、どの音を選べば終止の感じが表せるか理解できた。いよいよ創作の場面。一人一人がつくったお気に入りの旋律を、グループの中でつなぎ、オリジナルのお囃子へと仕上げるのだ。活動が始まると「つくった旋律は、リコーダーで吹いて試して」「どうして、その二つをつなごうと思ったの」と、創作や練り上げの根拠を、実際の音に求めるA教諭の的確な声掛け。イメージが少しずつ形になっていく手応えを実感した子供たちの目に、本気の光が見えはじめた。演奏の場では「ソレ」と元気な合いの手の声を上げ演奏するA教諭と子供の姿があった。

新学習指導要領では「表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付ける」必要性が明示された。子供の想いとそれを具現するための技能、そしてそれを支える教師の営み。その全てが合致したとき、音楽は魂を震わす力となり、真の感動を生む。

市民の交流を生み、文化を支える

～図書館交流プラザ「りぶら」この10年の営み～



▲ りぶらジャズオーケストラJr.岡崎Beanzz プロ奏者のレッスンを受けて、本格的なジャズに取り組んでいる。

岡崎市図書館交流プラザ りぶら

- ・ Libra ホール ・ スタジオ録音室
- ・ 調理室 ・ 創作室 ・ 会議室

- りぶらまつり
- 内田修ジャズコレクション
- りぶら演劇ワークショップ
- りぶらジャズオーケストラ Jr. 岡崎 Beanzz
- 岡崎市小中学校 「社会科研究作品展」
- ハッピーハロウィンりぶら 2018
- 国際交流イベント (りぶら国際交流センター)
- オカビズ (岡崎ビジネスサポートセンター)

- ・ 岡崎むかし館 ・ 子ども図書室

- 地域資料コーナー
- 郷土コレクション
- りぶら映像アーカイブス
- ティーンズコーナー
- レファレンスサービス (資料相談)
- 図書館まつり
- バリアフリーサービス など

中央図書館



- ◀ 家康文庫
地域資料コーナー。家康関連の資料が豊富に揃う。

図書館を核とする生涯学習複合施設「岡崎市図書館交流プラザ」は、市民が自ら学び、活躍できる知的活動拠点、これからの社会を先取りできる「人」を育む「楽・習・交流」の場として、平成二十年十一月一日に開館した。それから十年、「りぶら」の愛称とともに多くの市民に愛され、年間百二十万人以上の方が利用する施設となった。知を育む図書館機能(蔵書七十七万冊、年間貸出冊数約百八十万冊)の他に、文化創造機能や交流機能として、演劇ワークショップやりぶらまつりなど、様々な自主事業が行われており、市民の交流を生み、文化を支えている。

岡崎市図書館交流プラザ「りぶら」10年の歩み

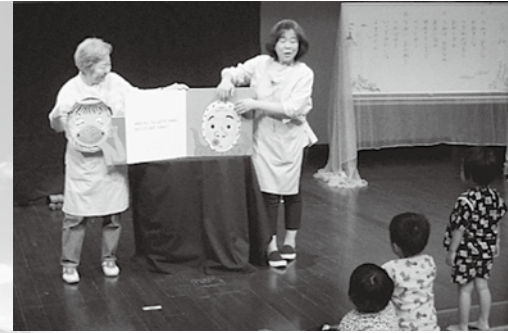
平成20年	図書館交流プラザ開館 りぶらまつり りぶら演劇ワークショップ開始
平成21年	りぶらジャズオーケストラ Jr. 岡崎 Beanzz を結成
平成22年	ブックスタート事業開始 乳幼児と保護者を対象に、読み聞かせとともに絵本を贈る。
平成25年	自動車文庫あおい号終了 小学校へのセット貸出開始
平成26年	国立国会図書館デジタル化資料送信サービス開始
平成28年	ハッピーハロウィンりぶら開始
平成29年	読書通帳サービス開始 借りた本の題名が記帳されるサービス。市内の小中学生は無料で通帳を作ることができる。(H30.9.13より未就学児童まで拡大)
平成30年	子供の読書活動優秀実践図書館として、文部科学大臣表彰 情報紙「図書缶」やティーンズコーナーなどの取り組みにより、 10周年記念事業 ビッグバンドジャズコンサート開催



岡崎市市民協働推進課

係長 畔柳 直典 さん
子供向けのワークショップ
や市民が自主的に活動して
いく環境を整えています。
長く愛される施設にして
いきたいと考えています。

市民の 交流を創る



▲ Libra 子ども遊びワークショップ
紙芝居や工作、昔ながらの遊びを体験できる。



◀ りぶら
演劇ワークショップ
子供から大人までがプロの
俳優の指導を受け、ひとつの
舞台を作り上げている。



▲ ワーママカフェ
子育て中の働く女性のための
講座が開催されている。



▲ オカビズ（岡崎ビジネスサポートセンター）
小規模事業者の売上向上を重点的にサポート。



◀ ハッピーハロウィンりぶら 2018
今年が第3回。多くの保育園児や
小学生が参加している。



▲ 岡崎むかし館 社会見学 ▲ 児童読書活動支援 セット貸出 ▲ 中学生の職場体験学習

学校と つながる 中央図書館

ティーンズ コーナー

中高生向けの図書がそろい、会話もできるように仕切られたティーンズルームもある。情報紙「図書缶」の編集会議はここで行われている。



▲ 図書館情報紙「図書缶」編集



◀ 生徒市議会の提案
で実現した「おすすめ
の1冊」コーナー
中学校が順番で本
を紹介している。
人気があり、貸出
中の本も多い。



岡崎市立中央図書館
資料提供サービス係

係長 天野 幸枝 さん
来館者数を増やすために、
時代のニーズをくんで様々な
サービスを実施していきたい
と考えています。今後も
学校との連携をさらに深め
ていきます。



● 教育最新情報

◆平成30年度全国学力・学習状況調査における岡崎市児童生徒の結果について

1 岡崎市教育委員会の授業改善等の取組

- (1) 国語、算数・数学、理科における岡崎市の児童生徒の学力と、学習環境と学力との関係関係を詳細に分析し、学校での授業や家庭での生活習慣等の改善すべき内容を把握する。
(2) (1)の分析結果を受け、授業改善案等を各学校へ伝え、改善状況を確認したり、必要に応じて指導したりする。
(3) 各学校において行っている「教育診断アンケート(学校評価)」を利用して、学校や教員が自己評価を行い、日々の授業の成果と課題を明らかにし、授業改善の具体的な対策に取り組むよう指示する。
(4) 教育委員会と学校は、家庭や地域と連携しながら、子供

【小学校6年生】平成30年度全国学力・学習状況調査 岡崎市の結果分析

Table with 3 columns: 科 (Subject), 主として「知識」に関する問題 (Knowledge), 主として「活用」に関する問題 (Application). Rows include 国語, 算数, 理科, 学習状況, 生活状況.

の生活習慣や学習環境が学力に反映することを周知し、改善を図る取組を行い、総合的な学力の向上に努める。



2 留意点

- (1) この調査は、子供たちの学習状況の改善を図るために参考とするものである。
(2) この調査で測定した学力や学習状況は、特定の一部分である。
(3) 学校では、成果と課題を把握し、授業改善に努める。
(4) 家庭に向けては、得意なこと・不得意なことを知り、また生活習慣の充実を図るなど、児童生徒が学習に意欲

【中学校3年生】

Table with 3 columns: 科 (Subject), 主として「知識」に関する問題 (Knowledge), 主として「活用」に関する問題 (Application). Rows include 国語, 数学, 理科, 学習状況, 生活状況.

- 委員 小出 義信
委員 岡田 京子
委員 福應 謙一
委員 上原 三十三

◆岡崎市教育委員会委員

平成三十年十月一日付で、岡崎市教育委員会委員に異動があった。

◆平成30年度岡崎市教育研究論文募集

【趣旨】 岡崎市立小・中学校教職員の日頃の教育実践及び教育研究の成果を広く募り、教職員の研修と資質向上及び学校教育の健全な発展を図るとともに、その努力を顕彰する。

- 【部門】
① 個人研究の部(第一部門)
② 共同研究の部(第二部門)
【論文の体裁】
① 字数 一八二〇〇字以内(図表、写真等の資料は、本文の範囲内に入れる。)
② 用紙・様式 A4用紙
③ 40字×35行 13枚以内(余白天地左右20ミリ以上)
④ 文字は12ポイント以上(余白への資料添付は禁止)

【留意事項】

- ① 体裁が違うものは審査の対象外となるので、注意する。
② 応募論文は未発表のものであること
③ 添付資料は、判読しにくいほど縮小しない。
④ 個人に関する情報を論文中に掲載、転載する場合には、特定の個人が識別されないよう、留意する。

【提出期限】

平成三十年十一月二十七日(火) 午後五時

小中学校別各教科「知識」「活用」に関する問題の様子

「そよかぜ相談室」だより

「そよかぜ相談」では、相談員と臨床心理士が対応している。

我が子に適した就学先について真剣に考える保護者、様々な事情で学校生活が少し苦しいと感じるようになってしまった子供や、その保護者が相談に来ており、相談件数は年々増加している。

相談員は、子供の成育歴や療育の様子、現在の状況をできる限り詳しく把握し、来所者とともに最良の就学先や子供への対応を考えている。また、相談の中で、正しく、より具体的な情報を伝えることができるように心がけている。子供の特性を受け入れて医療機関にかかり、療育を進めてきた保護者は、知識が豊富で子供の現状を理解しているという

ことを相談を通して知った。さらに、特別支援教育に対して大きな期待を寄せていることも実感している。臨床心理士は、相談に来た方の感じ方や考え方を知り、「こころ」の理解に努めている。並行して専門的な理論や概念を活用して客観的な理解も深

めている。そして、その方にとって最適な支援の方法を考え、「こころ」の専門家としての支援を続けている。

「来てよかったです」と言ってもらえたり、来所時より少し晴れやかな表情で出ていく姿を見たりするのは、とてもうれしいことである。

私たちは、今後も子供たちが、明るく充実した日々を送ることができるよう、力を尽くしていきたい。

表彰

◆ジュニアオリンピック

第32回都道府県対抗中学バレーボール大会

愛知県代表選手最終選考大会

優秀選手賞

矢作中 木下 叶有

矢作中 日比野太陽

矢作中 日比野宇宙

矢作中 白石 澄空

翔南中 成田 彩乃

翔南中 太田 桃華

翔南中 青木涼々花

福岡中 宮崎 千聡

◆第64回全日本中学校通信陸上競技大会

男子走高跳 八位 城北中 田中 鉄馬

女子1年100m

十位 城北中 片山 心菜

◆第49回ジュニアオリンピック陸上競技大会

A男子走高跳

八位 城北中 田中 鉄馬

◆第39回愛知県ジュニアオリンピック陸上競技大会

A男子100m

優勝 竜海中 山下 侑牙

A男子100m

二位 六ツ美中 田原 慧人

A男子走高跳

優勝 城北中 田中 鉄馬

C女子100m

二位 城北中 片山 心菜

A女子走高跳

二位 福岡中 野村 美咲

三位 竜海中 吉岡 夏希

A女子100m YH

三位 矢作中 齋藤 未来

A女子3000m

三位 六美北中 小山 愛結

B女子1500m

三位 六美北中 棧敷真菜美

BC共通女子オープン走高跳

優勝 六美北中 鈴木 菜美

C女子800m

三位 竜海中 壁谷 衿奈

C女子100m

三位 翔南中 林 美希

C女子オープン砲丸投

二位 岩津中 佐藤 美海

◆愛知県中学校団体卓球選手権大会

中学生女子の部

二位 甲山中学校

◆CBC子ども音楽コンクール

東海地区予選

声楽部門(合唱)

三島小学校

梅園小学校

井田小学校

山中小学校

連尺小学校

声楽部門(四重唱)

梅園小学校

声楽部門(合唱)

竜海中学校

声楽部門(女声四重唱)

竜海中学校B

矢作中学校A

竜海中学校A

小学校管楽合奏部門

竜美丘小学校

合奏第一部門

城北中学校

優秀賞

城北中学校

中学校管楽合奏部門

優秀賞

北中学校

◆第61回中部日本吹奏楽コンクール本大会

大編成の部

竜海中学校

◆第22回東海小学校バンドフェスティバル

マーチング・座奏・ミックス部門

竜美丘小学校

銀賞

◆東海マーチングコンテスト

パレードコンテスト部門

南中学校

銀賞

◆愛知県マーチングコンテスト

パレードコンテスト部門

南中学校

金賞

◆第49回博報賞

教育活性化部門

博報賞

常磐東小学校

◆小学生英語弁論大会

低学年の部

知事賞 岡崎小 森田 陽和

◆防火作品展

ポスター五年の部

竜美北中 上地小 町田 都

竜美北中 美合小 原田 翔

習字五年の部

習字六年の部

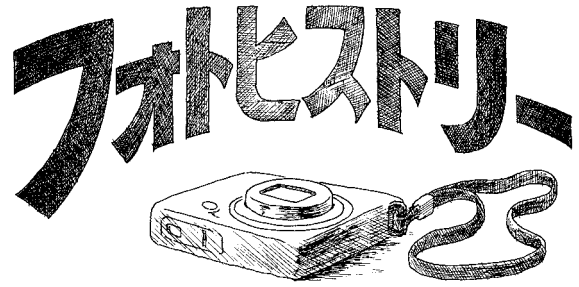
愛知県少年消防クラブ運営指導協議会長賞

男川小 内田 実優

・カ
ツ
ト
電
海
中
堀
口
宏
章

校庭に風力発電機 (平成5年)

写真提供：上地小学校



「ぴゅー太君」と名付けられたこの風車は、学校創立十周年を記念して設置された。発電された電力は、隣接した池の水を循環するための水車を回すのに利用され、環境教育に資するユニークな教材として活用された。

平成四年からの生活科、平成十二年からの総合的な学習の時間の開始に伴い、学校ジオトープが整備され、体験学習や環境教育の取り組みが見られた。また、平成二十三年以降、市内の小中学校に太陽光発電設備の整備が進み、現在は十二校で設置されている。発電量が表示されるため、自然エネルギーの力を知る教材にもなっている。

本市では、平成二十二年度から「岡崎市環境学習プログラム」を中心に、持続可能な社会の実現をめざした教育が続けられている。

「どきどき土器」、「カラダのびのび」「りぶらまつり」など、バラエティに富んだテーマ展示や各種イベント。「りぶら」には足を運んでもらう仕掛けがたくさんある。

市民と共に歩んできた「りぶら」で、人や本、音楽などとの交流を楽しみたい。

ど ホ

霜 目



岡崎のハーモニー (平成29年度)

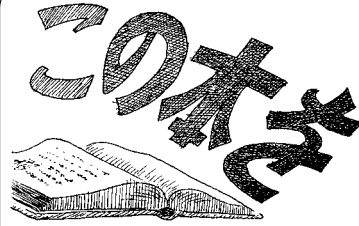
他では決して味わえない味を求めて、伊與田氏は、日々、試行錯誤しながら工夫と改善を続けている。

人も素材も地域に根付いた商売は、地域から愛される。地域を愛する思いが、岡崎の味を生み、地元への愛を形にした菓子を一つ一つつくっていくのであろう。

ホ ツ

伝えたい思いを音楽にのせて、美しいハーモニーを奏でる。昭和四十八年以來、各校の代表児童・生徒が集い、市民に素敵な音楽を届ける岡崎のハーモニー。

より美しいもの、よりよいものを求め、心をひとつに合わせる子供たちの姿が、聴く人に感動を与える。



* 国語ゼミ
NHK出版新書

佐藤 優
¥780

心に残った一文
「国語力」こそがAIが代替できない力である。

近い将来、AIが人間の能力を上回り、シンギュラリティーが到来するといったAI万能論が広がっている。そうした中、筆者は、AIでは代替できない力として「国語力」を挙げ、「あらゆる教養の底をなす国語がなごりにされている」点を問題視している。筆者の言う「国語力」とは、思考・判断・表現力を含む読解力であり、その重要性を説く。

新学習指導要領でも、今まで以上に能動的な学習を求めている。子供たちが自分で課題を解決していくためにも、読解力の養成は不可欠である。その力を育む基本的な学びの型として、音読指導の大切さも再認識したい。

* こども哲学
ワニブックス

川辺 洋平
¥1,300

* ぼくたちは習慣でできている
ワニブックス

佐々木典士
¥1,200

* ルポ児童相談所
朝日新書

大久保真紀
¥820

山中小 小川真奈美